

# 30人以下学級実現などを求める意見書

## 全会一致で採択

市議会は、毎年この時期に出されている陳情に基づいて、「30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に関する意見書」を、例年のように全会一致で採択しました。

子どもたちに豊かな教育を保障することは極めて重要です。また、子どもたちが全国どこに住んでいても教育の機会均等が担保され、教育水準が維持・向上

されることも重要です。こうしたことを政府に求める意見書の内容は、次の通りです。

- 1 少人数学級を推進すること。その際の学級規模は、OECD諸国並みのゆたかな教育環境を整備するため、30人以下とすること。
- 2 学校の働き方改革・長時間労働是正を実現するため、加配の増員や少数

職種の配置増など教職員定数改善を推進すること。

- 3 自治体で国の標準を下回る「学級編制基準の弾力的運用」の実施ができるよう加配の削減は行わないこと。
- 4 教育の機会均等と水準の維持・向上を図るため、義務教育費国庫負担制度の国負担割合を2分の1に復元すること。

# 入札案件1件に反対 <議案採決>

6月議会最終日の21日、提案された議案の採決が行われました。

日本共産党は議員団は、36の議案等のうち、35に賛成しましたが、都市計画道路黒井藤野新田線の戸野目川にかかる橋の新設工事の請負契約締結について、反対しました。

この案件は、一般競争入札で行われましたが、落札した事業者しか応札していないといういわゆる「1者入札」でした。

市は、「十分な期間をとって公告しているので、結果的に入札参加者が1者であっても、競争性や公平性は確保されていると考え

ている」と主張しています。

しかし、こうした「1者入札」は、競争性・公平性が保てないことから、多くの自治体で無効としています。また、財務省も、「入札等に付したものの競争性が十分に確保されていないことがその一因になっていると考えられるので、改善方策を定めて取り組む」としています。

党議員団は、「競争性・公平性に疑義を生じさせる『1者入札』については、厳正な対処をすべきである」として、平良木議員が反対討論を行って、毅然として反対しました。

**日本共産党上越市議員団ニュース**  
No.712 2021年6月27日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

**上越保健所管内感染症患者発生状況**  
(6月18日現在)

PCR検査実施件数	11,682件(前週+254)
管内陽性件数	142件(前週と同じ)
上越市内陽性件数	123件(前週と同じ)
陽性率	1.21%(前週1.24%)

# 犀潟駅南口開設は地域の悲願

## 上野議員の一般質問

「企業進出・住宅増加に対応しぜひ開設を」と要求

上野議員は、柏崎刈羽原発における事前了解件を含む安全協定の締結、東京オリンピックピック・パラリンピックに際してのドイツチームの事前合宿、「佐渡島金山」世界遺産登録と小木直江津航路、そして、信越本線犀潟駅南口の開設の各点について、市長の考えをたずねました。

このうち、犀潟駅南口の開設について市長は、「大潟区犀潟町内会や頸城区町内会長協議会からの要望を踏まえて、犀潟駅の利用実態を調査し、駅正面側と南側との往来は全体の36%であることがわかった。この結果をもとにJR東日本新潟支社と協議したが、JRからは『多額の費用がかかるので、自らが主体となって整備を行う考えはない』との回答だったので、南口の開設は難しい」と答えました。

そこで上野議員は、「犀潟駅南口には、多くの企業などのほか、多くの住宅が建設され、通学の児童

生徒が増えている。通路も狭い。なんとかしてほしい」と重ねてたずねました。

これに対して市長は、「環境の変化も理解しているし、要望ももたっている。それに応じて、国道から駅に入る信号の改善も行った。しかし、770人の乗降者しかない。いずれにしても、JRは自ら整備する考えはないとのこと。市としても、独自の建設は困難。また、市の独自設備としての連絡通路を建設するとなると、3つのホームと4本の線路を跨ぐことになり、非常に困難だ。理解してほしい」と、前向きな答弁はなりました。

上野議員はさらに、「市長は3年前、『地元の切実な願いと認識している』と答えたが、その認識は変わらないか」とたずねました。

市長は、「対応できるものは対

応したいとの思いからそう答えた。今の状況で、駅というのほどのようなものか。地域事業費があつたときも大潟区で議論があり、実現しなかった。環境が変わったというが、駅をめぐってはこのような状況だ。車が駅に入りやすいように信号は改善しても良かった。それぞれの状況の中で工夫してもらえない」と同様の答弁を繰り返しました。

